

会員のみなさま

JSPEHSS 副会長の清水 紀宏です。

能登半島地震からの復旧・復興が未だに進まない現実の傍らで、最悪約30万人の死者が想定されるという南海トラフの被害予測に関わる報道に触れました。東日本大震災やコロナ感染症などの災害時には常に不要不急の文化とされてきたスポーツですが、その後どのように自らの存在意義と持続可能性を論証できているのか、反省の機会となりました。

さて、先日4月19日に第14回理事会が開催されましたので、その審議内容を中心に恒例となりました理事会通信をお届けいたします。

議事次第は以下のURLからご覧いただくことができます。

<https://taiiku-gakkai.or.jp/wp-content/uploads/2025/04/JSPEHSS20250419.pdf>

#### □名誉会員候補者の推薦について

毎年ルーティンの審議事項ではありますが、本会の運営と学術研究の発展に多大な貢献をしていただき、今もなお一線の研究者としてご活躍の諸先生方のリストを拝見する機会となりました。改めて長年のお力添えに、この場をお借りして感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

#### □阿江美恵子賞の創設

本学会の役員（副会長・理事・監事）として、また、スポーツ心理学の研究者として本会の発展にご尽力いただきました阿江美恵子先生からの寄付金をもとにした顕彰制度（阿江美恵子賞）に関わる規程・細則が審議され、本年6月の定時社員総会に提案することが決定されました。本賞は、教育・研究・組織運営等を通して女性のエンパワーメントに貢献し、特にジェンダー平等な社会の構築に尽力した女性研究者を対象としたものです。定款3条に記された本会の目的「体育・スポーツ・健康に関わる諸活動を通じた共生社会の実現」に通ずる本賞を、今後、多くの女性研究者が受けることになる未来を願います。

#### □学部学生の会員制度と学会発表について

本学会の定款では、正会員を「体育学に関する学識経験を有する個人」と定めているため、学部学生が会員になることはできません。また、学会大会で発表することも不可となっています。しかしながら、会員数が少しずつ減少している会の現状や未来の研究者への門戸開放の観点から、学部学生の受け入れにも柔軟であってもいいのではないかと意見があり、今後引き続き折に触れ議論を続けていくこととしました。日本学術会議若手アカデミーでは、「理科離れ」等への危機感から、研究者という専門人材の職業人的魅力・価値を高校生に向けて発信するリクルーティングが行われているようです。本学会でも、体

育・スポーツ・健康学への研究志向を持つ青少年の皆さんへのアプローチも検討すべき時期に来ているのではないか、そんな個人的感想を抱いた次第です。

最後になりますが、現在、本年度の学会大会（会場：日本体育大学東京・世田谷キャンパス、会期：8月27日～29日）への参加（早期割引は5月28日まで）・発表申し込み期間となっています。久しぶりの完全対面形式による大会となりますので、多くの皆さんが集い、熱のこもった質の高い対話がなされますよう、奮ってご参加くださいませ。

以上